

# 多摩大学樋口裕一ゼミ卒業制作

## ～雪の魔法がかかるとき～

### ～ヨーロッパの歌～

カッチーニ アヴェ・マリア

1990年代にロシアのテノール歌手によって世に出たと言われております。終始単調なリズムのこの曲ですがその単調さ故に聞けば聞くほど深みがあり色々と考えさせられる作品です。(鈴木)

テラックア ヴィネラル(牧歌)

ヴィラネルとは古いフランスの詩です。この曲は高く澄んだ空に舞う一羽のツバメの鳴き声を再現しています。さわやかな曲をお楽しみください。(岡庭)

ドリーフ カティスの娘たち

ラテン(カルメン)を思い出させるような音楽で歌手の高音に注目！中盤と終盤で音楽歌手ともに盛り上がります！(松田)

### ～日本の歌～

山田耕作 ペチカ

ペチカとはロシア風の暖炉のことです。冬の寒さの中にもどこか温かみを感じる。そんな曲調をお楽しみください。(田中)

エストレリータ(小さな星)

武満徹 小さな空

子ども心のある歌詞が特徴のとても聴きやすいアカペラソングです。とても親しみやすい歌詞に注目してください。(田中)

## ～クリスマスソング～

**アグスティン・バリオス・マンゴレ** クリスマスの歌  
ゆっくりとしたテンポで、思わず目をつぶって聞きたくなる。クリスマスソングだけあり、雪が降っているような風景が思い浮かばれるような柔らかな雰囲気曲である。  
(和田)

**マヌエル・ボンセ** カンシオン(聖母の御子)  
雪の降ったあとの乾いた晴れた日が思い浮かばれる。なんだか懐かしいようなゆったいとした曲である。(和田)

**ライフ・フレイン** Have yourself a merry little Christmas  
クリスマスシーズンでは欠かせない一曲。切なくも力強く耳に残る音は圧巻。クリアな音は心も温めてくれるでしょう。(佐藤)

**アリャビエフ** 夜鳴うぐいす  
この曲は、落ち着いた調律で盛り上がり、穏やかな心で音の世界に飛び込んでくるような一曲です。(佐藤)



## 森 美代子 (ソプラノ)

東京都出身。東京音楽大学音楽学部声楽演奏家コース卒業。同大学院修了。在学中、特待生奨学金を授与される。2005年二期会オペラ研修所オペラストゥーディオ第48期マスタークラス修了時、優秀賞受賞。平成18年度文化庁新進芸術家国内研修員。大学院在学中に、「ドン・ジョヴァンニ」(ドンナ・アンナ)、「ラ・ボエーム」(ムゼッタ)、「昔噺 人買い太郎兵衛」(おもん)、2006年日生劇場オペラ「利口な女狐の物語」タイトルロールにて本格的にオペラデビュー。

これまでに、日本オペレッタ協会「ルクセンブルグ伯爵」(ジュリエッタ)、同協会創立30周年記念公演「微笑みの国」(ミー王女)、東京音楽大学創立100周年記念公演「フィガロの結婚」(スザンナ)、プッチーニ誕生150年フェスティバル・オペラ「三部作」の「修道女アンジェリカ」にて(ジェノヴィエツァ)などに出演する。

宗教曲のソリストとしてもモーツァルト「戴冠式ミサ」、ブラームス「ドイツレクイエム」、プーランク「スターバト・マーテル」、ジョン・ラター「マニフィカート」、ヴィヴァルディ「グローリア」、ヴェルディ「聖歌四篇」など多数出演している。

コンサートでは、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭2008、二期会「愉しみの刻(とき)」、東京オペラシティにて「森美代子リサイタル」、ドラマティックオペラコンサート～今聴かせたい歌手たち～、Oasisにつぼん丸船内コンサート、フレッシュ名曲コンサートにて新日本フィルハーモニー、日本フィルハーモニー、東京フィルハーモニーと共演など出演している。

## 松尾 俊介 (ギター)

1979年京都市に生まれる。10代より東京国際ギターコンクール、日本ギターコンクールなど、数々のコンクールに受賞歴を持ち、1999年フランスに渡る。2003年パリ国立高等音楽院ギター科を審査員満場一致の首席で卒業。2004年には、同音楽院室内楽科を卒業、アントニー国際ギターコンクール(フランス)にて第3位入賞し、5年間のフランス留学を終えて日本に帰国する。

2005年、庄内国際ギターフェスティバルにて第1位オスカー・ギリア賞を受賞。古楽と現代音楽に焦点を当てたファーストアルバム「ヴァリエ1」をリリース、11月にはトッパンホールにてデビューリサイタルを開催。

その後、HAKUJUギターフェスタ、美山ギターフェスティバル、NHK-FM名曲リサイタル、ベオグラード国際ギターアートフェスティバル(セルビア)、サラエボの冬(ボスニア・ヘルツェゴビナ)、ヨンジュ国際ギターフェスティバル(韓国)、東京オペラシティB→C等に出演、ソロのみならず室内楽、オーケストラとの共演や新作の初演など、国内外での多彩な演奏活動を展開。

これまでにギターを渡部延男、福田進一、アルベルト・ポンセ、キャレル・アルムス、オリヴィエ・シャッサンの各氏に、古楽をエリック・ベロック氏に、室内楽をラスロ・ハダディ、上田晴子の各氏に師事。2008年、この年没後60年を迎えたメキシコの作曲家マヌエル・ポンセ作品集「Varie4/Ponce Guitar Works」をリリース、レコード芸術誌特選盤に選ばれる。地域創造・公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト。

## 樋口ゼミの活動

- ・2009年4月 多摩大学樋口ゼミ発足。
- ・2009年6月26日、多摩大学101教室にて、新居由佳梨（ピアノ）と江島有希子（ヴァイオリン）を招いて「あらえじ・カンタービレ」を主催。親しみやすい曲のほか、ワグスマンの「カルメン幻想曲、リストの「ラ・カンパネッラ」、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第5番「春」などを演奏。
- ・2009年9月18日、多摩大学101教室にて、日本を代表する作曲家の三枝成彰氏を招いて演奏会を運営。日本を代表するチェリスト山本裕康、有望なピアニスト新居由佳梨により三枝成彰の作品「チェロのためのレクイエム」改定版を日本初演。そのほか、バッハの無伴奏チェロ組曲第一番、ポッパーの「ハンガリー狂詩曲」、リストの「ラ・カンパネッラ」などの有名曲を演奏。
- ・2009年11月10日、パルテノン多摩大ホールで、世界が注目する若手のホープである佐藤俊介（ヴァイオリン）と菊池洋子（ピアノ）により多摩大学20周年記念コンサートを運営。曲目は、フランクのヴァイオリン・ソナタ、ラヴェルの「ツィガーヌ」など。樋口ゼミの学生たちがこのコンサートを準備し、成功に導く様子が多摩テレビでも紹介された。
- ・2010年8月25日、新居由佳梨（ピアノ）、江島有希子（ヴァイオリン）、三宅理恵（ソプラノ）を招いて、渋谷区のHAKUJU HALLで「音楽の宅急便」と題したコンサートを主催。ジブリの曲（「もののけ姫」「君をのせて」など）のほか、サン・サーンスの「序奏とロンド・カプリチオーソ」、シューベルトの「糸を紡ぐグレートヒェン」、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ第5番「春」などを演奏。
- ・2011年4月8日、若手コロラトゥーラ・ソプラノのホープ森美代子、フィルハルモニア多摩のメンバー、そして多摩フィル音楽監督の今村能を招いて、パルテノン多摩小ホールにて「多摩音楽祭前夜祭、フィルハルモニア多摩、室内楽第一回定期演奏会」を運営。東日本大震災後のコンサートだったために、最初にバッハの「アリア」を演奏し、その後、ヨハン・シュトラウスの「ウィーンの森の物語」「春の声」、モーツァルトの「魔笛」から夜の女王のアリアを2曲、ロッシニーの弦楽のためのソナタ、最後にリヒャルト・シュトラウスの「カプリツォ」の導入曲などを演奏。
- ・2011年7月、フィルハルモニア多摩の金管楽器のメンバーによって、サン・サーンスの「動物の謝肉祭」、フンパーディンクのオペラ「ヘンゼルとグレーテル」などの金管五重奏にて演奏。「ヘンゼルとグレーテル」には、多摩フィル音楽監督の今村能の語りがあった。
- ・2011年10月、フィルハルモニア多摩の木管楽器のメンバーによって、「星空の窓辺から」と題して、モーツァルト「きらきら星変奏曲」、「ナハトムジーク」、ドビュッシー「月の光」、メンデルスゾーン「真夏の夜の夢」、イベール「3つの小品」などを演奏。